

II 地域再生への提言

都市部にかかわる再生 中山間地にかかわる再生

- コーディネーター : 丸山久一 [コンクリート工学]
- パネリスト : 大塚 悟 [地盤工学]
- : 中出文平 [都市計画]
- : 松本昌二 [交通計画]
- : 石黒義久 [経済・産業 : 新潟商工会議所]
- : 岸井隆幸 [都市政策 : 日本大学]

都市部にかかわる再生



中山間地にかかわる再生



宅地造成地の地震被害と復旧

長岡技術科学大学

大塚 悟

高町団地の地盤被害

- 傾斜地盤上の盛土被害
 - 切盛り境界と地盤変状との相関
 - 地形的な凸部箇所での地盤変状
- 集水地形 (谷筋や沢筋)での盛土崩壊
 - 崩壊土砂の長距離移動
- 重力式擁壁の脆弱性
 - 擁壁の滑動
 - アンカー施工擁壁は健全

地震被害の原因

- 直下型地震による大きな振動
 - 設計外力
 - 既存構造物の耐震性
- 盛土の耐震安定性
 - 変形・すべり破壊の多発
 - 引張力に対する盛土の強度不足
- 台風による降雨の影響
 - 盛土の強度低下

高町団地の強化復旧

- 周回道路盛土 (擁壁) の耐震補強
 - 耐震対策工の施工
 - アクセス道路の美観配慮
- 盛土崩壊地点の強化復旧
 - 盛土の締固め管理 , 排水機能強化
 - 耐震対策工の施工
- 行政の支援制度
 - 宅地の再建支援
 - 災害危険度の高い宅地の移転支援

宅地造成地の課題

- 既存盛土の耐震診断と耐震補強
 - 人的被害防止のための選択的強化
- 地盤情報・災害危険度の公開
 - 地質・強度の地盤情報
 - 切盛りなどの施工情報
 - 自然災害の危険度
- 造成地の品質保証
 - 盛土締固め管理,排水施設の完備
 - 耐震対策工の施工

中山間地の地震被害と復旧対策

地盤被害の状況

- 自然斜面の崩壊
 - 対策不可能な規模の斜面崩壊
 - 河川の閉塞
 - 農地・ため池の亀裂・すべり破壊
- 盛土崩壊
 - 傾斜地盤上の盛土
 - 集水地形 (谷筋や沢筋) の盛土
- トンネル
 - 斜面崩壊の影響により部分的な損傷

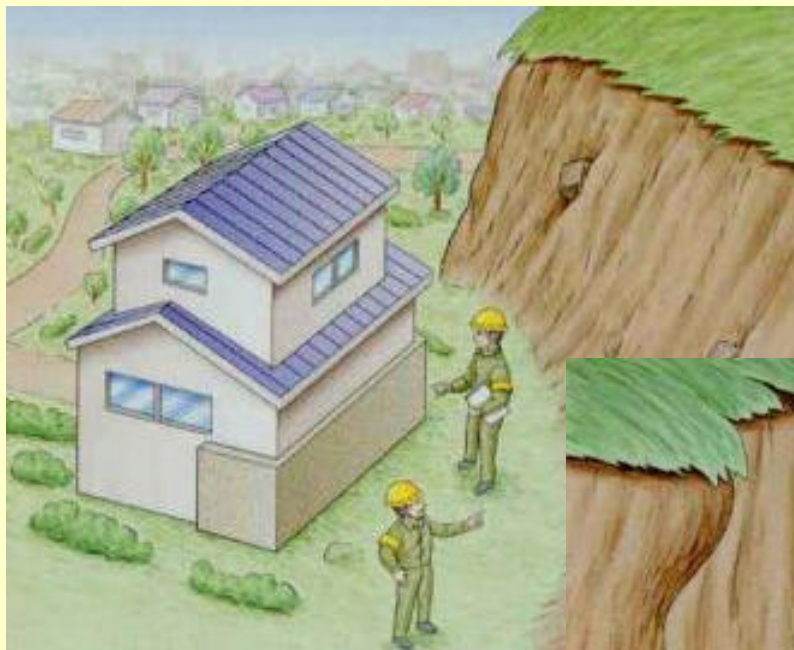
復旧対策（短期的）

- 斜面危険度の調査
 - 崩壊危険度の高い斜面抽出
 - 崩壊土砂による河川閉塞の危険性
- 道路ネットワークの構築
 - 道路の選択強化（耐震レベルの策定）
- 幹線道路の耐震対策
 - 早期復旧可能な被害レベルに抑える必要
 - 災害危険度を考慮したルート選定・工法
- 被災住民へのアドバイス支援
 - 宅地の災害危険度（建築，地盤）と復旧相談

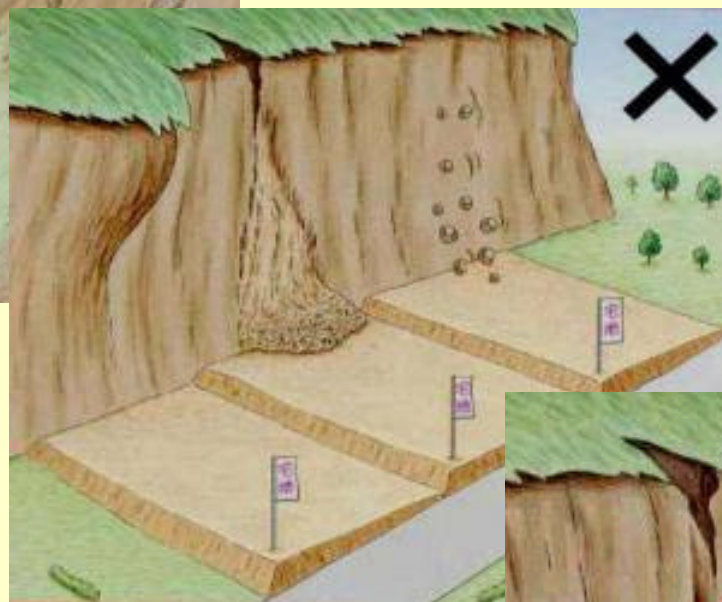
復旧対策 (中・長期的)

- 斜面ハザードマップの作成
 - 斜面の崩壊・非崩壊事例の特性調査
 - 道路や宅地は切盛り情報の利用
 - 斜面カルテの作成
- 土砂災害防止法の整備
 - 建物の移転, 建物構造規制, 土地利用制限
 - 豪雨災害から地震災害への拡張整備

土砂災害防止法

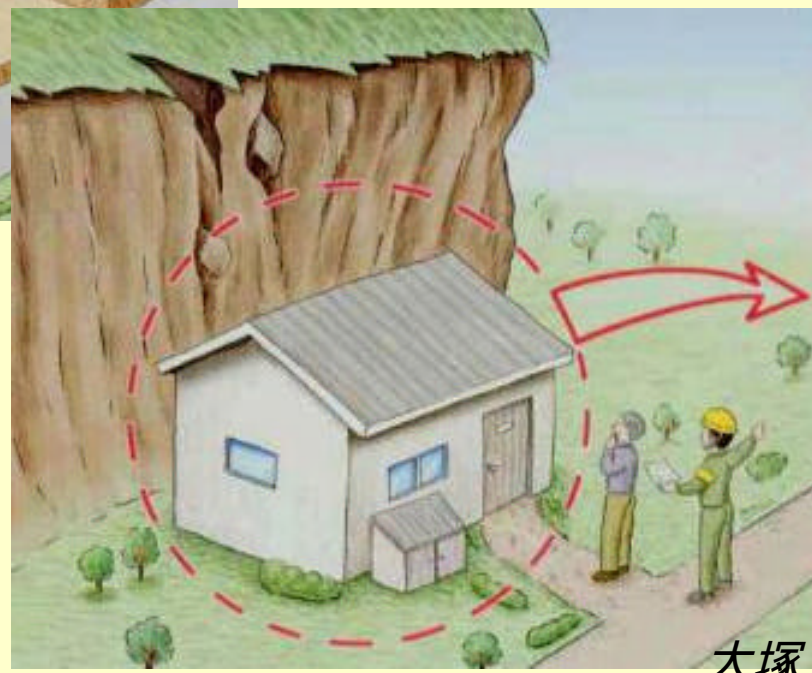


建物構造規制



土地利用規制

建物の移転



大塚

地域再生への提言

- 都市計画 -

長岡技術科学大学

中出 文平

都市部の地域再生に関して

中心市街地

震災前からその再生が課題となっていた

従来のコミュニティの再建 +

中心市街地の再生 の実現のためには

まず人口の流出を防止することが必要

高齢者のみで居住する世帯の住宅が被災した場合

新たな住宅を個人で建築するのは困難

* 面的な住宅地の被害ではない
櫛の歯が折れたように被害
阪神淡路大震災型の
面的整備は似つかわしくない

個人にのみ責任を押しつけず
被災者の生活再建をまちなか居住で支えるといっ
た復興策が求められている

郊外住宅地

高床式住宅の被害が小さかった
建物自体よりも道路及びインフラの修復が対象

それ以上に、今回の経験から
今後の人口減少社会下で
市街地の縮退を念頭に置く場合の
郊外住宅地のあり方を考えることが重要

農村集落に地域再生に関して

最も被害が大きく広範囲に散在する

まずは冬期に孤立集落を出さないことが必要である

中長期的な対応としては

住めるだけでは駄目

農地とそこへ至る農道・用水の再生・修復を含め

集落・農業環境を一体として考えた生活再建が必要

宅地、建物、道路、農地、農道を

縦割りで個別に対応するのではなく

一元化して進めないといふ真の復興とはならない。

残念なことだが
都市部では復旧が困難な宅地
農村部では持続的 생활が困難となる小集落
では
撤退という選択をせざるを得ないかもしれない

* 撤退の方策 - 市民・住民本位の方策とは？

地域再生への提言

- 交通、インフラ整備計画 -

長岡技術科学大学

松本 昌二

都市部の地域再生について（交通）

■防災、安全安心のための交通施設や道路の整備

- ・量的な規模拡大でなくて、現道の強化復旧・改修

■新幹線、高速道路の閉鎖により、高速交通の効果を再認識

- ・供用の高速道路の有効利用：料金割引、スマートIC、除雪強化

■ 鉄道、バス等の公共交通利用者の減少傾向が強まる

- ・ 自動車交通とのバランスを修正するTDM
- ・ 社会的弱者を配慮した交通アクセスの向上

■ 地域防災の便益は、他の効果と比べて小さく計算される

- ・ 費用便益分析は、短期的な経済効果を大きく評価していると理解すべき

中山間地の地域再生について (インフラ整備)

山古志村について考える：

- インフラ復興についても、集落による地形、被害、産業の違いを考慮する
- 幹線道路網：国道291号、352号，小千谷・栃尾線（栃尾・山古志線）が基本、ルート検討
- 電力供給、上水道、下水道は分散型にする
- 芋川河道閉塞（土砂崩れダム）は、水源として利用

■山古志村の地域再生

- ・住宅（居住）と労働（産業）が一体
- ・住民の「帰る意欲」が継続するように支援する
- ・公共は従で、住民が主体

都市部の地域再生

日本大学理工学部土木工学科

岸井 隆幸

都市部の地域再生

- ・ 個別の公共施設・敷地・建物の復旧
- ・ 生き活きとした「まちなか再生」を目指して
- ・ 春までに復興イメージの合意を
- ・ 中心市街地活性化計画の見直しも

ぬくもり実感 手づくりおぢや」(h13)

住宅
+
福祉・医療



時間の消費





中山間地の再生

- 生活基盤と産業基盤の復旧・復興
- 中山間地でのモデルを目指して
- 都市部との交流、教育・文化の拠点
- シーニックバイウェイなどの活用

シーニックバイウェイ

景色 (S cene)とわき道 (B yway)

地域発案型運営組織

ブランド形成

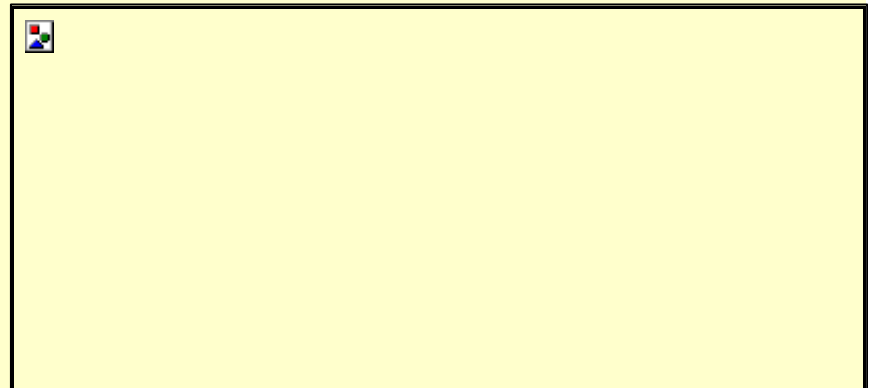
コミュニティビジネスの創造

持続的サポート



Spirit Lake Memorial Highway

ビジターセンター



地 域

地域資源の再発見

地域の活性化

地域資源の保全・活用

(活動例) 沿道の植栽、沿道観光情報の提供、
体験型ツアーの企画など

連携

行 政

安全・安心な交通の確保

美しい沿道景観・国土づくりの創造

プロモーション＝ブランド化の確立

(活動例) 看板の統一やルール化、ビューポイントの整備、広域ルートキャンペーンなど

誇りを育てホスピタリティを向上

ホスピタリティのための舞台装置づくり

美しいツーリング環境の創造
個性的な地域環境の創造

